

学術委員会

委員長 水口俊介

超高齢社会の到来により歯科医学、歯科医療が高齢者に対応するためのさまざまなエビデンスの整備が重要になっています。昨年度来、本委員会が注力してきたものの一つに「口腔機能低下症」があります。2016年には本学会誌に「口腔機能低下症」に関するポジションペーパーを発表させていただきました。口腔の機能低下が全身の機能低下につながるということを念頭に、いち早く口腔に現れる兆候に気付き、歯科医療者によって治療や管理ができるように病名として確立できないか。またそのための議論の骨格を示し、さらなる臨床研究の契機となることを意図してのものでした。現在はそのポジションペーパーの英文化の作業を行っているところです。もし「口腔機能低下症」が病名として認められれば、高齢患者にとって、またその方々を診療する歯科医療者にとってたいへんなメリットであると考えます。「口腔機能低下症」については3年連続で学術大会でのシンポジウムを予定しております。

もう一つは、脳卒中患者に対する早期の歯科的介入が及ぼす効果に関するガイドラインです。これは現在、ガイドライン委員会と学術委員会WGを組織し作業を進めています。かなりたいへんな作業なのですが、周術期口腔管理と同様に脳卒中に関しても口腔管理を付けることに大きく貢献するものと思われしますので、WGは頑張っています。

このほか、2018年の学術大会では在宅歯科診療等検討委員会と共同で「在宅診療を科学する」というシンポジウムを予定しております。在宅歯科診療の問題点、現場で問題となっていること、自分で在宅診療を始めるときにはどのようなことに注意しなければならないかを情報提供したいと考えておりますので楽しみにしててください。

